

平成28年度 第2回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 平成29年3月26日(日) 14時00分～15時30分

<開催場所> 宇治市役所8階 大会議室

<出席者>

| | |
|--------|------------------------------|
| 多田 重光 | 公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長 |
| 長谷川 節穂 | 宇治商工会議所 専務理事 |
| 安藤 和彦 | 京都文教短期大学 教授 |
| 真山 達志 | 同志社大学 教授 |
| 服部 広志 | 株式会社京都銀行宇治支店 支店長 |
| 西村 徹也 | 連合京都南山城地域協議会 事務局長 |
| 高田 悦子 | 特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事 |
| 寺川 徹 | 市民委員 |
| 山口 万紀 | 市民委員 |

計9名

<事務局等>

| | |
|-------|--------------------|
| 木村 幸人 | 宇治市 副市長 |
| 貝 康規 | 政策経営部 部長 |
| 岩本 裕子 | 政策経営部 副部長 |
| 山田 雅彦 | 政策経営部行政経営課 課長 |
| 大園 智 | 政策経営部行政経営課経営推進係 係長 |
| 原田 友彦 | 政策経営部行政経営課経営推進係 主任 |

計6名

<会議次第>

1. はじめに
2. 会議
 - ・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる転出入者へのアンケート調査結果について
 - ・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる平成29年度事業について
 - ・地域ブランド調査について
3. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

事務局) 本日は、皆様方には大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、会議に先立ちまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

資料につきましては、席上にて配付させていただいておりますものと、各委員の皆様事前に送付しておりますものがございますが、会議次第、配付資料一覧、席次表、資料1 転出者・転入者へのアンケート調査結果、資料2 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる平成29年度の主な新規・拡充事業一覧、資料3 地域ブランド調査についてでございます。

《欠席委員の報告》

それでは委員長、会議の進行をお願いいたします。

2. 議事

- ・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる転出入者へのアンケート調査結果等について

委員長) それでは、私の方から会議次第により進めさせていただきます。

会議前の連絡事項を申し上げます。

本日の委員会について、傍聴の申請があり、これを許可しましたので、ご連絡いたします。これより、第2回宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。まず、審議会の開催にあたりまして、副市長よりご挨拶を頂きます。

《副市長 挨拶》

それでは、会議次第2、会議の「①宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる転出入者へのアンケート調査結果について」、「②宇治市まち・ひと・しごと創生総

合戦略にかかる平成29年度事業について」、「③地域ブランド調査について」を事務局より説明をいただきたいと思います。

《資料①②③について事務局より説明》

基本的には報告ですので、ここで何かを審議して何かを決めるというわけではございませんが、事業の展開についてアドバイスとかヒントになるものを出していただくこともあるかと思えます。なお、この会議は会議録を作成いたします。そしてこの会議録は情報公開の対象となりますので皆様に念のため申し上げておきます。それでは、何かご質問やご意見ございましたらお願いいたします。

委員) 資料を見て一番驚いたのは、治安の悪さが出ていることです。こういうことは一切感じないですが、場所とかはどうでしょうか。一部、近鉄の大久保とかそういうのは確かに街灯が暗いなど、また、木幡に住んでいますので人口が減ってきていると思えます。

それと我々働く立場から言いますと、労働者不足のなかでどういう風に中小企業が生き残っていくかというようなことを考えると、品質の高い雇用をしなければいけない。昨日も京都の地域フォーラムというのがあって、労働者、経営者、労働局に来ていただいてよかったなと思っています。

宇治市では六地藏近辺の人口が増えているが、昔分譲されたときに多く人が入られている地域は空き家になってきているというのが現状です。

やはり一番驚いたのは治安でした。

委員) アンケート結果を見ていると、良かった点と悪かった点、両方同じような項目が上位にきているのがよく意味がわからない。市全体としての話をしてはいますが、もう少しミクロの視点で分けて見ていく必要があると思えます。

20代後半くらいからどんどん転出していると聞いてはいたけど、何か一般的に大きなレベルだけで見てもわからないのでないかという気がしました。

委員長) アンケートの結果について、ご意見をいただきましたが、おそらく25～34歳くらいまでの世代というのが、人間の一生を考えたときにいろいろ変動が多い時期なので、住居が変わるということも多くなるのかなという気がします。私自身も、住んでいるところが嫌で出ていきたいと思ったことは一度もないですし、逆にここは絶対に住みたいと積極的に思ったわけではなくて、仕事とかいろんなことを考えて結果的にここに住んだというのが正直なところです。そういうことを考えると、実はそれほどそのことを意識して引っ越しをしているかというところとそうでないような部分もあるかなという気がします。

もう一つブランド調査がありますが、具体的に何に着目していいとか魅力的と言っているのかよくわからない結果なので、ある意味あまりあてにならないですけれども、逆に言うと人がどこかに住もうとか考えているときにはあまり個別の要素に着目して決めるというよりは、イメージ的にいいとか、そういうところが結構大きいのかなという気もいたします。

委員) 引っ越しで決める時に、私は繁華街で子供を育てるよりは、少しゆったりしたところで育てたいと思っています。今回の転入アンケート結果で、まちづくりで期待することに子育てしやすいまちづくりとありますが、宇治市としてどんなイメージで、それを受け取った人はどんなイメージでそこにきたのか中身がすごく重要になってくるのかなと思います。

また、子育てしやすい環境が何なのか、ニーズがそれぞれ違うと思いますので、保育所に入りたいとか、人それぞれ違うとは思いますが、大きく見たときにまちづくりを具体的にに入れていけないのかなと思いました。

交通の利便性では、通勤で考えれば電車、大阪へのアクセスとかいろいろ出てくるとは思いますが、車を持っておられる方、持っておられない方で市役所等へのアクセスの良し悪しが違ってくると思います。

私自身、山口県から転入してきましたが、昔は「宇治」という、まち自体が魅力的であるという感じでしたが、「宇治」という名前だけでは少し物足りない状況になってきていると思いました。

委員) 言い方は悪いですが、治安については、よほどセンスの悪い住まいの選び方をされた人が不満を述べていらっしゃるのかなという感じで、どこが悪いのかなという感想を持ちました。ある一部の地域にお住まいになられた方が、治安が悪いという風にお感じになられたのかなと思いました。

委員) アンケートに関しては共感できる部分と共感できない部分がある。京都府下で最も合計特殊出生率が高い福知山市では、20代後半の方の新しい若い世代の家族の転入率が高いということで、会社や工場が多いという関係で入ってこられる従業員の方が多いということを聞いています。

アンケート結果にもありますが、仕事の都合などで転入される方あるいは転出される方が多いと思いますので、具体策というのはなかなか難しいですけども、地域の産業活性化が重要なのかなと考えます。

委員) 転出・転入の理由として、家庭や仕事の事情などいろいろあると思うが、宇治市に何年間住まれていたか、などの視点があっても良いと思います。

委員) 交通の利便性が、転入、転出の理由にあがっていますが、宇治市は昔から東西の移動の利便性が悪い。

また、買い物が不便だという人と便利だという人が同じくらいいるということは、住民の多い所に大型店などは出てくるから、少ない所は不便に感じてくるので、適正配置しなければいけないと思います。

槇島町の広い空き地ができましたが、本来なら市が購入してもらって、いわゆる企業に来てもらって雇用創出というのが理想だと思います。まちづくり全体が民間の流れでなるようになってきていると思います。

最近炭山地区に移住される方がいると聞いていますが、わざわざ不便な所に行かないから、おそらく自然環境を求めてのことだと思います。どのような理由で増えているのか、わかれば観光や産業と結びつけることができるとと思います。

委員) 車が乗れなくなって、自転車が乗れなくなったらどうするのか、ということから組み立てていかないと、その時にどういう施策を受け入れることによって、高齢者対策もでてくるのかなと思います。

委員) 車離れしているから、公共交通を使うという流れになっている。

委員) グランドビジョンが見えないと思います。

このまち・ひと・しごと総合戦略のなかで、目玉事業とは何なのでしょう。何かこういう方向に向かうための目玉事業が見えない。資料のなかで空き家対策は拡充とされているが、少し議論はされているのかもしれないが、ぜんぜん進んでいない。調査研究とあるが、こんなペースでいいのですか。総合戦略の34ページ目にも空き家対策が書いてありますが、先行している空き家対策の成果は出ているのでしょうか。他の自治体から見ると危機感が見えないと思います。

例えば空き家や集会所を利用して、特色のある学童保育や時間外保育をしても良いのではないかと思います。

また、子育て世代として、宇治で子育てして思うことは、公園がまずない。子育て支援サービス自体はすごく充実していて、病児保育などはものすごく良いが、通学路の安全という点でこういうところで子育てしている人の気がしれないと言われたこともありました。

事務局) 市としましては、総合戦略定める5つの基本目標に沿った施策の実進を進めています。まとめにも書いていますとおり、子育て世帯の転出者において、宇治市で生活していて良かった点として、子育て支援サービスが上位にあったことは、この間切れ目のない子育て施策を取り組んできた成果があるのではないかと思います。

ほかにアンケートから見えてきたのは、仕事などをきっかけとして、単身の方が転

出されておられますので、さらに雇用施策にも力を入れていく必要があると感じています。

産業施策につきましては、中小企業や地域の活性化のため新たな施策を講じていますが、産業戦略の策定などについても着手しており、詳細な分析も出てくると思いますので、ご意見等いただきながら、参考にして進めていきたいと思ひます。

事務局) 今回のアンケート結果は、委員からご意見をいただいていますように、想定していないものもありました。地域によって問題はそれぞれ違ってくるのだと思ひますので、全体の施策に網をかけるのは非常に難しいことですが、地域ごとに考えていかなければいけないことがこれから出てくるのではないかと思ひます。

ただ、全般的にそれほど財政のゆとりがある訳ではありませんので、ある程度特化させながら進めていかなければいけないと思ひますので、ご指摘を受けたことも含めて考えていかなければいけないと感じています。

また、空き家施策につきましては、よく考えていかなければいけないと思ひますので、1年間よく議論して進めていきたいと思ひます。

委員) 景観行政では中宇治が手厚いと思ひます。西宇治・東宇治はほったらかしになっています。中宇治がストーリーを描きやすいのだと思ひますが、もう少しバランスをとってもらったほうが良いと思ひます。一部施策に関しては、宇治のなかでアンバランスを作っています。

委員) 産品購入意欲度では、食品以外の購入意欲度が151位になっています。宇治には朝日焼、炭山にも陶器などがありますので、これらを茶と観光と陶器のまちとして、きっかけを作ってもらえれば良いと思ひます。

事務局) ふるさと納税等を活用しながら、発信していきたいと思ひます。

委員長) ブランド力を上げていくには、例えば子育て施策が充実しているということは、子育て世代の人は具体的に調べるのでどんなことをしているか伝わりますが、まちのイメージとして子育て世代でない人を見たときに、市の取組が伝わるかが重要であり、そのためには広報・PRがきっかけになるのではと思ひます。

事務局) 29年度事業として、子ども・子育て情報発信事業でLINEを活用した情報発信を取り組んでいきたいと考えています。

また、魅力発信大使推進事業として、宇治市全体の魅力の発信を行ってきたいと思ひます。

委員) 子育て情報の発信と高校生による魅力発信はすごくリンクしているように思います。どこの自治体も流入施策を実施していますが、人口の取り合いになっている。それよりも、いかに今いる人に定住してもらうかの施策が大事です。

高校生が宇治市の魅力を発信するときに、観光ではなくどれだけ子育てしやすいかを発信すると必ず知識として残ると思いますし、今いる人に対する満足度も上がると思います。

事務局) 宇治のイメージをうまく出していかなければいけないと思います。今回、宇治のプロモーション動画も作成し、関心を持っていただくきっかけにもなっています。また、本市では宇治学として、子どものころから良さをわかってもらい取組も進めております。

委員) プロモーション動画はどれくらい費用がかかりましたか。

事務局) 500万～600万円であったと思います。

財源については、国の財源を活用し実施しています。

委員) 再生回数はあまりあてにならないと思いますし、賛否両論もあるのではないのでしょうか。

委員) バリアフリー等の観点から、できればマンションに住みたいと思っておりますが、宇治市では一戸建ての分譲が多いです。

子育て施策は、どこの自治体も同じようなことをやっておりますので、どのようにアピールするかが重要であると思います。うまくいけばもっと結果がでるのではないかと思います。

委員) 京都府下では、高校生の職場体験で保育所の体験を実施されています。幼稚園も今年度から実施しておりますので、継続して実施して行って欲しいと思います。

委員長) 他にご発言はございませんか。

それでは、これもちまして、閉会いたしたいと思います。

長時間にわたり、ありがとうございました。

3. 閉会

《事務局 閉会挨拶》